

馬治療法

心脾ノ氣結シ、草料消セザラシムル者是也、飽傷ハ飽トキニ乘騎シテ再便飲食セシメ、馬草ヲ喫コト太猛ナルニ因テ之ヲ得、其病馬ヲシテ腸胃ニ積聚シ、糞行遲澀ナラシムル者是也、肥傷ハ馬臆大ニシテ力行スルニ因テ之ヲ得、走傷ハ馬極テ走コト大過スルニ因テ之ヲ得、二ノ者ハ皆馬ヲシテ肉斷脂消氣續ザラシム、

〔圓流騎馬法〕^四療治之卷

一摠而馬の病は二しやを以ておこる物也、此ははじめは一つには物飼所、一つには乗つからす所を以て、二しやと云ふなり、又云、二しやと云ふは呂律の二つ、是を以ておこる、乘人息合をも去らす曲する時に、くどく、甚わきまへもなく、心にまかせ乗ば、彌曲さかんに成、息はつまるゆへ、其曲なをらす、息の病と成、それより四百四病のやまひ出る也、依之息合を大事に乗ば曲もなをり、息もつまらぬゆへに、病出ぬ物なり、口傳有、

〔令義解^八脈^八牧〕凡官畜應請、脂藥療病者、所司預料須數、每季一給、謂官畜者、馬察之畜也、所司者、左右馬察、預料、數申、官、官即每季一給、其牧畜者、不在此例、

〔璫囊抄^七〕馬藥師ヲハクラクト云何ゾ、文字如何ニ、

伯樂ト書ク、是古人ノ名也、略○中近比ハ小河ノ乘澄コソ、無雙ノ伯樂ニテ、安驥ト云名書ヲ作ラレケル也、彼文頗ブル名物ナレバ、甲乙^ト飼^クノ秘藥許リ注シ侍リ、

春三箇月分

肝 木、王、スル、心 火、本、苦、子、味、甘、脾 土、仲、人、藥、肺 金、仲、人、藥、腎 水、本、味、シ、ハ、ユ、シ、母、味、ス、シ、子、味、カ、ラ、シ、

夏三箇月分

心 火、王、ニ、ガ、シ、脾 土、本、味、ア、マ、シ、肺 金、仲、人、藥、腎 水、仲、人、藥、肝 木、本、味、ス、シ、子、シ、ハ、ユ、シ、

四季土用分